



二俣川小だより

6月号

横浜市立二俣川小学校 令和元年5月24日
発行責任者 校長 池田 千晶



子どもの心を自信の水で満たす

池田 千晶

「きょうね、いっぱい？（はてな）を見つけたの。それでわかったの。」
学校探検のあとで、嬉しそうに話をしてくれた1年生。その表情は、得意げで自信に溢れていました。漫画に書き表したら、「へへん！」と胸を張っている文字を書き加えたくなるようなそんな場面です。そうそう！私が見たい表情は、まさしくこの表情なのです。自分で、小さな階段を昇ったという手応えを実感している表情でした。

5年生は高学年として委員会活動や運動会の係の活動が始まりました。6年生と一緒に全校のために活動するという過程で、やりがいや達成感を感じていくことなのでしょう。初めての活動にちょっと緊張していた表情が印象的でした。

子どもは、こうした経験を通して、「自分ってなかなかやるな。」と少しずつ自分に自信をもっていくと思います。最近読んだ本の中で、カウンセラーの森田直樹さんは子どもの心に必要な栄養を「自信の水」とよんでいました。子どもの心には、それぞれ、大きさの違ったコップがあり、そこに「自信の水」が入っています。けれどもそれは日々の生活（勉強や友達関係など）で使いながら生活しています。同時に周りの人に認められたり、親から愛情を受けたりして、自信の水を補給しているというのです。これが心の発達につながっていくのだそうです。では、自信の水はどのように補うのでしょうか。森田さんは3つのポイントをあげています。その一つとして、自信の水をつくるために、大人が子どもの良さに嬉しい気持ちを付け加えて、毎日3つ以上その時その場で気持ちを込めて伝えるということを提案しています。見つけにくいと思われる方もいるかもしれませんが、「足音を聞くと、私も本当に楽しくなる」といった足音さえもよさとして伝えられると述べています。



今、子どもたちは運動会に向けて取り組んでいる最中です。こんな時は、三つのよさを見つけやすいときかもしれません。子どもは学校・家庭で生活しています。それぞれで子どもの自信の水を一滴一滴ためていけたら、どんなに素敵でしょうか。少しずつなので時間はかかりますが、行えば確実に溜まっていきます。

6月1日は、運動会です。熱心に練習してきた子どもたちは、自信の水をためて当日全力でがんばることと思います。保護者や地域の皆様に大きな声援をおくっていただければ幸いです。どうぞ、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。